令和７年度第１回坂井市総合教育会議 会議録（概要）

日　時：令和７年７月１５日（火）午後１時１５分より２時４５分まで
場　所：坂井市役所　３階災害対策本部室

【会議日程】
１　協　議
(1)　坂井市小中学校における授業改善の取り組みについて
(2)　坂井市国際交流英国派遣・招へい事業について
(3)　その他

【出席者】
池田禎孝市長、林晃司教育長、橋本明子教育長職務代理者、牧田靖夫委員、
齊藤弘喜委員　宮﨑美恵子委員、光成章探究学習アドバイザー

総務部	奥出部長
教育部	中田部長、半澤次長(教育総務課長)、井尻次長（文化課長)、浦次長（坂井市図書館長）
学校教育課	永田教育審議監、伊東課長、橋本 SOE 推進コーディネーター、寺井指導主事
生涯学習スポーツ課	新家課長、門馬参事
丸岡城国宝化推進室	北林室長
事務局書記	松浦補佐、小林補佐

【会議概要】

市　長　（あいさつ）
みなさん本日はお忙しい中､総合教育会議にお集まりいただき感謝申し上げる。今回、坂井市の光成探究学習アドバイザーにもご参加いただいた。今回の総合教育会議は少し思考を変えて、これまではどちらかというと「報告」という形が多かったが､今回は二つテーマを決めて､皆さんからいろんなご意見をお聞かせいただきたい。様々なご意見、ご質問があるかと思うが､率直に発言いただければと思う。本日の会議が実りあるものとなるよう､よろしくお願い申し上げる。

市　長　坂井市総合教育会議を開催する。
まず、坂井市小中学校における授業改善の取り組みについて議題としたい。

橋本SOE推進ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　（資料に沿い説明）

市長　授業改善の中で、探究学習と DX についてご報告をいただいた。質問も含めて各委員さんの方からご発言をお願いしたい。
まず、橋本教育委員から順にお願いしたい。

橋本委員　　学校訪問では様々な授業を参観しているが、どの授業も楽しく、こちらも考えさせられることが多い。また、一緒に学びたい、もう一度学び直したいと思える授業もあり、先生方が日々授業研究に取り組まれている成果だと感じている。
近年はタブレットの活用が定着し、「ノートを出す」代わりに「タブレットを出す」ことが当たり前になっているなど、時代の変化を実感する。先生方も子どもたちもICT機器の操作に慣れており、スキルの向上が見られる。一方で、通信環境の不具合により授業が中断し、子どもたちの思考が止まってしまう場面もあるため、通信環境の整備は引き続き重要である。
探究学習については、子どもたちが自ら課題を見つけ、仲間と意見を出し合いながら学びを深める理想的な学習形態であると感じている。しかし実際には、課題設定の難しさや時間不足、個々の能力差への対応など、現場には様々な課題がある。今年度はアドバイザーの先生から直接指導・助言を受けられる環境が整っており、大変有意義である。現場の細かな悩みについても気軽に相談できる体制が充実すると、さらによいと思う。

齊藤委員　　リーディングDX事業について、各小中学校への指導主事訪問を通して、教職員や児童生徒のタブレット活用が大きく進んでいることを実感した。一方で、特に小学校低・中学年ではICTリテラシーに関する指導が十分でない面も見られ、授業中にタブレットで学習以外のことを行う児童も一部見受けられた。
学校において継続的な指導が行われていると思うが、家庭でのタブレットやスマートフォンの利用状況も踏まえ、家庭と連携しながらICTリテラシー教育をさらに充実させる必要があると感じた。
探究学習については、先日福井新聞で紹介された平章小学校の児童2名の事例が成果の一つであると感じている。地域の城について学んだ内容を中学校進学後も発展させたいという強い意欲のもと、地域の方々を巻き込みながら活動を継続・発展させており、探究学習の成果が表れている。
今後の社会では、自ら課題を見つけ、解決していく力が一層求められる。その意味でも、この事例は平章小学校から丸岡中学校へとつながる探究的な学びのモデルケースになると考える。引き続き、先生方の指導と支援に期待したい。

市長　　ここで担当課に質問をしたいが、一つは橋本委員からの通信環境の問題、そしてDXについて齋藤委員から家庭での教育、リテラシー問題提議があり、担当課から、どのようにしているのか、どのように解決を考えているのか回答願いたい。

教育総務課長　　通信状態の悪いところがあるというところだが、今年度ネットワークのWiFi環境のアセスメント調査を実施している。その結果に基づいて、改修すべきところは予算化して、来年度以降に直していく計画を立てている。

市長　　家庭での教育リテラシーで何か携わっていることはあるのか。

寺井指導主事　坂井市では「ＧＩＧＡワークブックさかい」を児童生徒に配布しており、それを授業で使うことで情報活用能力を低学年から中学校まで発達段階に合わせて育成している。また、家庭向けには学校教育課が作成した端末持ち帰りマニュアルを配布し、適切な利用方法について周知を図っている。今後も内容の見直しを行いながら、継続して周知・啓発に努めていきたい。

宮﨑委員　探究学習について、学校訪問で授業を参観する中で感じたことを 2 点申し上げたい。
まず、授業のあり方が大きく変化し、先生方が子どもたちの考えを引き出そうと工夫や努力を重ねていることを実感している。一方で、探究学習には時間を要する印象があり、限られた授業時間の中で探究的な学びを進めながら、受験等に必要な基礎的・基本的な学力の定着が十分図られるのか気になるところである。また、保護者の立場からは高校受験への関心も高いが、大学入試では探究的な学びを重視する方向への変化が見られる中、高校入試についても既に変化しているのか、あるいは今後変わっていくのか伺いたい。
もう 1 点は、近年の教育の変化と保護者とのギャップについてである。この 10 年間で教育は大きく変化しており、保護者世代との認識の違いも大きくなっているように感じる。特に小学校低学年では家庭で学習を支援する機会も多いため、家庭学習での声かけや学習支援の方法、留意点などについて、保護者向け講演会の実施を含め、具体的な助言や情報提供の充実をお願いしたい。

牧田委員　私も学校訪問に参加しているが、授業内容そのものよりも、特に新 1 年生の学習態度や学級の様子に注目している。4、5 月には落ち着かない様子が見られた学級でも、後期の訪問時には落ち着いて学習に取り組む姿が見られることがあり、先生方の指導の成果を感じている。
また、小学校 3 年生から英語教育が行われているが、中学校でさらに学習内容が高度化する中で、子どもたちが十分対応できるのか気になるところである。一方で、英語だけでなく、日本語の使い方や話し方など、国語力の育成も重視してほしいと考えている。
授業ではグループ討議が多く取り入れられているが、その教育的な効果についても知りたい。また、現代の子どもたちは習い事やスポーツ、塾、ゲームなどで多忙であり、自ら時間や生活をコントロールする力を育むことが重要だと感じている。外国籍児童は坂井市でも増加しており、今後の支援体制の充実が必要である。
また、タブレットの活用が進む一方で、漢字を書く機会の減少などを懸念しているが、今後の ICT 化の進展を考えると変化への対応も必要であると考える。
さらに、道徳教育は人として大切なことを学ぶ重要な機会であり、引き続き充実を図ってほしい。
提案として、勝山市の「勝山子どもの村小中学校」を訪問した際、宿泊体験

や農作業など多様な体験活動を通して子どもたちの自主性や個性を伸ばす取組が行われており、大変参考になった。このような特色ある教育実践から学ぶ機会を設けてはどうかと考える。

市長　いろいろなご意見が出た中で、永田審議監、教育改善について教育委員の皆様からいただいた質問、提言に対して、何か紹介することはあるか。

永田審議監　委員の皆様からいただいたご意見は、いずれも重要な課題であり、教育現場としても強く認識している。
高校受験については、現在も学力検査の点数を重視する側面が残っている。一方で、入試問題には思考力や判断力を問う内容も増えてきており、探究的な学びの重要性も高まっている。そのため、探究学習による主体的な学びと、基礎的・基本的な知識の確実な習得をバランスよく進めていくことが必要であると考えている。
外国語教育については、日本語指導の重要性を踏まえつつ、国際化が進む社会に対応するため英語教育の充実も求められており、両者のバランスを図りながら取り組んでいきたい。
また、グループ討議は授業改善の重要な手法の一つであり、ICT も活用しながら、自ら考え、他者と意見を交わし、多様な考え方に触れる力を育成していきたい。
さらに、子どもたちの自主的な活動や主体的な学びを学校として支え、生涯にわたる探究心や学び続ける力を育む教育課程の充実を期待している。

市長　これまでのやりとりを踏まえ、光成アドバイザーから教えていただきたい。

光成探究学習アドバイザー　外部アドバイザーによる指導は有意義であるが、教員に求められるのは、その実践を自ら再現できる力を身に付けることである。特に探究学習は実際に取り組む経験が重要であり、授業の質の向上には教員の資質・能力の向上が欠かせない。そのため、新任教員の育成システムの充実が必要であり、個人目標の設定に加え、先輩教員が支援するメンター制や PDP・PTP のような仕組みの導入も検討すべきである。教員の多様な経験や視点を生かしながら人材育成を進めることが重要であり、近年の教員の経歴の多様化は前向きに捉えている。
また、PTP に坂井市独自の目標を加えることで、「SaKAI Original Education」として特色ある教育を推進できるのではないかと考える。社会の変化に応じて教育も変わる必要があり、既存の枠組みにとらわれず、食育や将来を見据えた教員の育成など、坂井市らしい取組を進めてほしい。
教員の役割は、子どもたちが将来社会で必要となる力を育むことである。しかし、教員が社会の変化や先進事例を学ぶ時間は十分とは言えない。その点、教育委員会が外部機関や大学と連携し、新しい教育実践の導入を進めていることは評価できる。
探究学習は、知識の習得だけでなく、コミュニケーション力や主体性など社会で求められる力を育成する上で重要である。一方で、非認知能力の育成は

学校だけでは難しく、家庭の協力も欠かせない。子どもの考えを否定せず対話を通して思考を深めるなど、家庭と学校が連携して子どもの成長を支えていくことが大切である。

市長　　教育の役割は、知識や技能を教えることだけではなく、身に付けた能力を実際の生活や社会の中で生かせるようにすることにあると考えている。探究学習は、まさにその力を育てることを目的とした取組であり、その意義を子どもたち自身が理解することで、より前向きに学習へ取り組み、学ぶ意欲の向上にもつながるのではないかと思う。
本日、各委員から探究学習や ICT 活用、人材育成、家庭との連携などについて様々な意見や提案があったが、いずれも今後の教育を考える上で重要な視点であると感じている。これらの意見を踏まえ、教育長からコメントをお願いしたい。

教育長　　教育委員の皆様ならびに光成アドバイザーから、多岐にわたる貴重なご意見やご指摘をいただき、ありがたく受け止めている。特に、今の子どもたちが 10 年後、15 年後に活躍する社会を見据え、変化の激しい時代を生き抜く力を育むという視点は非常に重要であり、私たちも日頃からその考えのもと教育活動を進めてきた。
同じ内容を同じ方法、同じペースで学ぶ従来型の授業は、これからの時代に必ずしも適したものではないとの認識から、授業改善を進めてきている。その具体的な取組の一つが探究学習であり、リーディング DX 事業であると考えている。
本日いただいた意見を改めて整理し、今後も坂井市の教育が子どもたちの幸福や成長につながるものとなるよう、学校現場の教職員と連携しながら取り組んでいきたい。改めて、貴重なご意見に感謝申し上げる。

市長　　今、教育長が言ったことを、例えばその各学校、各先生方に伝える手段、場面はあるのか。

教育長　　本年度は 15 校を訪問しており、その都度行う全体会で、先ほど申し上げた内容を全教職員に伝えている。また、毎月の校長会に加えて今年度から教頭会を開催しており、教頭や教務主任など学校運営の中核を担う教職員に対しても、資料を用いながら説明を行っている。
さらに、教育委員会が実施する ICT 教育や魅力ある学校づくりに関する研修会においても、光成アドバイザーの資料や指導用資料を活用し、これから求められる教育の推進について継続的な啓発を行っている。
一方で、単に回数を重ねるだけでは十分に浸透しないことも実感している。そのため、先ほど紹介のあった戸田市の戸ヶ崎教育長による先進的な取組の紹介をはじめ、他自治体の優れた実践事例についても積極的に取り上げ、機会を捉えて周知していきたいと考えている。

市長　　光成アドバイザーの資料は、保護者や教職員にとっても参考になる内容であ

ると感じている。PTA 向けの説明会や教員研修会などの機会に、光成アドバイザーから直接お話しいただくことは可能か伺いたい。

光成探究学習アドバイザー　もちろん可能である。教師向けの集合研修には代表者が来てくださるが、各学校に戻って確実に共有してもらえるとよいと考えている。若い先生からベテランの先生まで幅広く、探究担当の先生が理解していても、その内容が他の先生に十分伝わらない場合もあるかもしれない。そのため、必要に応じて積極的に声をかけてもらいたい。また探究の推進には家庭の協力が不可欠である。保護者に直接お話できる機会を学校ごとでも構わないし、設けてもらえればいつでも伺いたいと思っている。

市長　それはオンラインでも可能か。

光成探究学習アドバイザー　大丈夫である。

市長　橋本コーディネーター、何かコメントあるか。

橋本 SOE 推進コーディネーター　先ほど光成アドバイザーからも話があったが、学校では代表者が研修に参加し、その内容を校内で共有する伝達研修の仕組みが十分に浸透していない面があり、課題を感じている。一方で、自ら資料を作成し、自分の言葉で分かりやすく伝える教員も見られ、少しずつ変化が進んでいると感じている。また、2 学期には坂井市子育て研修会を予定しており、その機会に光成アドバイザーの話を聞いていただくことも検討したい。加えて、各学校の要望に応じて、教職員や保護者を対象とした講話の機会を設けるなど、探究学習への理解を深める取組を進めていきたいと考えている。

市長　本日のご質問やご提言により、多くの論点が整理できたと思う。目指すべきは、子どもたちの生きる力を育む教育である。教職員には発達段階に応じた指導の工夫を行い、学ぶ楽しさを伝えていただきたい。
低学年では学校生活への適応を重視し、学年が上がるにつれて挑戦する力や主体的に考える力を育んでいくことが大切である。そのため、子どもの成長段階に応じた適切な助言や支援を行いながら、一人一人の成長を支えてほしい。

光成探究学習アドバイザー　探究学習では、自分の興味や関心のあるテーマについて学びを深めるが、その過程を通じて自分自身の性格や特性を理解することにもつながる。いわば「自分探究」の側面があり、それを積み重ねることで、将来どのような進路や職業を目指したいのかが明確になっていく。
また、自分の目的や目標が見えてくることで学習意欲の向上にもつながる。こうした自己理解や主体的な進路形成を促すことも、探究学習の重要な目的の一つである。

市長　私も常々、人は自分の能力や興味、適性になかなか気付けないものだと感じ

ている。例えば、将棋の藤井名人が将棋と出会ったことや、音楽家が音楽に興味を持ったこと、また森長官が気象に関心を持ったことなど、将来につながるきっかけとの出会いが大きな意味を持つ。
子どもたちにも、多様な学びや体験を通して興味や関心を引き出し、自分の特性や得意なことに気付ける機会を与えることが大切である。その積み重ねが自己理解や将来の進路選択につながると考えており、そのような視点を大切にしながら教育を進めてほしい。

次の事項に移る。事務局から説明をお願いする。

生涯学習スポーツ課長　（資料に沿い説明）

市長　教育委員からご質問、ご提言をお願いする。

橋本委員　昨年度、長期間中断していた英国招へい・派遣事業が再開されたことを大変喜ばしく思っている。特に4月の報告会では、参加した生徒たちがグループごとに設定したテーマについて協力しながらまとめ、生き生きと発表する姿が印象的であった。
異なる学校の生徒同士が、限られた期間や環境の中で完成度の高い発表を行っていたことからも、大きな成長を感じることができた。また、同じ目標を持って英国派遣に挑戦した仲間たちが、多様な人々との交流を通して視野を広げ、様々な面で成長している様子が伝わってきた。
今年度も100人を超える応募があると聞いており、児童生徒はもとより、保護者や地域からの関心も高い事業であると感じている。今後も多くの子どもたちが挑戦し、国際的な視野を持って地域や社会に貢献できる人材へ成長していくことを期待している。

齊藤委員　英国派遣・招へい事業は非常に意義のある取組であり、今年の招へい時に坂井市の中学生がウェールズから来た友人たちとの再会を喜ぶ姿からも、国際交流として大きな成果を上げていることを実感した。
一方で、円安などの社会情勢を背景に、公費を投入して事業を継続する意義について市民から疑問の声が上がる可能性もある。そのため、参加した児童生徒がどのような学びを得て、それが将来にどう生かされているのかを、より積極的に発信していく必要があると考える。
ウェールズ派遣は今回で27回目を迎えており、初期の参加者はすでに社会で活躍する世代となっている。派遣経験が進路や仕事にどのような影響を与えたのかを調査し、その成果を示すことも有効ではないか。
また、派遣後の報告会は大変充実した内容で、生徒の成長を感じることができたが、参加者が関係者や保護者中心であった印象を受けた。今後は市民向けの報告の機会を設けるなど、参加生徒が学びや体験を広く発信できる場を検討してもよいと思う。

宮﨑委員　私は3月に派遣団の引率者として、半年間の事前研修を経て団員とともに英

国を訪問した。その中で、団員たちが大きく成長していく姿を間近で見ることができた。緊張感のある環境の中で、自ら考え行動する経験は、日常の学校生活では得難いものであり、多文化理解や国際的な視野を育む貴重な機会になっていると感じている。
先日、県教育委員会の会議で他市町の教育委員から話を聞いたところ、多くの自治体が派遣事業の継続に加え、新たな交流先の開拓にも取り組んでいるとのことであった。グローバル化が進む中、インターネットを通じて情報は得られるが、実際に海外を訪れ、現地で体験することの意義は非常に大きいと改めて実感した。
事業運営には様々な苦労があると思うが、このような国際交流事業が坂井市にあることは市の魅力の一つでもある。今後も継続し、次代を担う子どもたちの成長につなげていってほしい。

牧田委員　私も 7、8 年前に英国派遣団の団長として参加したが、大変貴重な経験だった。実際に海外を訪れることで視野が広がり、日本とは異なる文化や価値観に触れられたことは強く印象に残っている。
また、英語に不安があっても、ジェスチャーなどを交えながら意思疎通が図れた経験は大きな自信につながった。これからの子どもたちが世界で活躍する時代を考えると、この国際交流事業の意義は大きい。
半年間の事前学習は決して容易ではなかったと思うが、その成果が派遣先で十分発揮されており、事前研修の重要性を感じた。
一方で、応募者が多い中、参加できない児童生徒もいるため、英国招へい事業などを活用して交流機会を広げることも必要ではないかと思う。また、事業継続に当たっては費用面も考慮し、東南アジアなどとの交流を検討する余地もあると考える。
実際に現地で体験し感動することに大きな価値があり、私自身にとっても英国派遣は今なお大切な財産となっている。

光成探究学習アドバイザー　近年、体験格差が課題として指摘されていることから、経済的な事情にかかわらず子どもたちが参加できるような支援や工夫を検討してはどうかと思う。また、引率体制についても見直しの余地があれば、参加人数の拡大につなげられる可能性がある。
英国と日本には時差があり調整は容易ではないが、ICT を活用して現地の参加者と国内の関係者をオンラインでつなぐなど、新たな交流の方法も考えられる。
あわせて、派遣事業が人材育成にどのような成果をもたらしているのかを把握するため、参加者の追跡調査を行うことも重要である。国際交流については、オンラインの活用により費用を抑えて実施できる取組もあるため、実施可能なものから進めていくことが必要ではないかと考える。

生涯学習スポーツ課長　本事業については長年継続しているが、教育委員や光成先生からいただいたご意見は、これまでも認識してきた課題である。特に、事業の効果や参

加者のその後の進路・活躍状況を把握するための追跡調査は重要な課題と考えている。
平成29年に一度調査を実施したが、国際分野や関連職業で活躍している例は多くなかった。一方で、坂井市職員の中には英国派遣経験者がおり、この事業をきっかけに進路選択につながった事例も見られることから、一定の成果はあったと認識している。
また、費用対効果については、年間1,000万円を超える予算を要する一方、派遣人数が18人から25人程度に限られることが課題として挙げられる。しかし、派遣人数の妥当性や事業の在り方について検討を重ねながらも、可能な限り継続していきたいと考えている。
今年度は説明会に103人が参加し、一次応募では63人の申し込みがあるなど、英国への関心の高さがうかがえる。実際に派遣できる人数は限られるものの、多くの子どもたちに国際交流への関心や挑戦する機会を提供できていることにも事業の意義があると考えており、今後も継続していきたい。

教育長　本事業については、特に成果と課題の両面から多くのご意見をいただいた。今後は、これらの課題への対応を中心に検討を進めていきたい。例えば、報告会については、事業の意義や成果がより多くの児童生徒に伝わるよう、実施方法を工夫する必要があると考えている。
また、リモートの活用については、ウェールズとの交流に限らず、時差の少ない国や地域とのオンライン交流を取り入れることで、国際理解や多文化共生への意識を高めることができると考える。
今後も様々な手法を取り入れながら、より多くの子どもたちが国際交流の意義や魅力を実感できるよう、事業の充実に努めていきたい。

市長　本来であればこの場で質問したかったが、次回以降でもよいと考えている。国際交流事業は派遣や招へいだけでなく、学校教育の中でどのような国際交流を進めていくかという視点も重要である。現在の取組状況を整理するとともに、坂井市国際交流協会など関係団体と連携した活動やイベントへの参加なども検討できるのではないかと思う。
子どもたちが幅広く世界を知ることは、日本への理解を深めることにもつながり、視野を広げる上で大変重要である。派遣や招へいに限らず、多様な形で国際交流を推進していくことが必要ではないかと考える。
英語教育とも関係するが、今後も様々な方法による国際交流の機会を充実させるよう、引き続き工夫をお願いしたい。

光成探究学習アドバイザー　私は福井に戻る機会は多くないが、近年は外国人の姿を見かける機会が増えていると感じている。福井駅前などでも外国人と接する機会があり、身近な地域の中でも国際交流は十分可能ではないかと思う。また、県内には外国人労働者やその家族が暮らしている地域もあり、国際交流の機会は多く存在していると感じる。
こうした身近な国際交流の機会を探究学習と結び付け、福井を訪れた外国人に地域の魅力を紹介する活動などに発展させることも考えられる。

派遣や招へいだけでなく、地域資源を生かした様々な取組を組み合わせることで、福井にいながらでも国際交流を進めることができるのではないかと考える。

市長　　他に何かあるか。

橋本委員　　私の子どもも国際交流事業の英国派遣に参加させていただいたが、本人にとって非常に良い経験になっていると感じている。
現在は英語を生かした仕事に就いているわけでもなく、地元に戻ってきているわけでもないため、その点については申し訳なく思うところもある。
それでも、本人にとって大変貴重な経験であったことは確かであり、この事業に対して感謝している。

齊藤委員　　国語教育について、光成アドバイザーの資料では、企業が新卒採用においてコミュニケーション能力を重視していることが示されていた。私自身も企業で人材育成に携わる中で、対面でのコミュニケーションを苦手とする若者が増えていると感じている。
社会生活では、言葉を通じて相手と意思疎通を図る力が重要であり、その基盤となる国語力の育成は欠かせない。また、国際交流事業を通じて多様な国や文化に触れ、英語を学ぶことも重要である。
さらに、国際交流や英語学習を通して、日本や坂井市の魅力を再認識することも大切だと考える。国際交流事業を継続するとともに、探究的な学びを通じて、子どもたちのコミュニケーション能力や国際感覚の向上につながることを期待している。

宮﨑委員　　子どもたちを育て、その教育環境を守ることは非常に重要である。一方で、近年の教育を取り巻く変化の中で、教員が大きなプレッシャーを抱えていることも感じている。これまでの経験だけでは対応が難しい場面も増えており、ベテラン教員であっても不安を抱えながら指導に当たっているのではないかと懸念している。
学校は、子どもたちが人との関わり方を学ぶ大切な場であり、その役割を今後も大切にしてほしい。また、教員が心に余裕を持って子どもたちに向き合えるよう、教員自身の不安や負担にも配慮した支援を進めていただきたい。

牧田委員　　国際交流については、国際交流協会の活動や地域で外国人と接する機会の増加なども踏まえながら、多様な視点で考えていく必要があると思う。また、市長が紹介された藤井名人の例のように、何かとの出会いがきっかけとなり、興味や才能が伸びることもある。
私自身、4人の子どもに様々なスポーツを経験させてきたが、多様な体験を通して自分の好きなことや得意なことを見つけることが大切だと感じている。
そうした経験を重ねる中で、子どもたちは中学生になると将来や進路につ

いて考えるようになる。高校や大学など将来の選択肢を見据え、自分の方向性を考える力を育むことは、中学校段階において重要であると感じている。

市長　　教育長からまとめの一言をお願したい。

教育長　　本日は大変有意義な会となり、私どももしっかり考えさせられる良い機会になったと思っている。やはり坂井市の子どもたちが坂井市で育ってよかった。坂井市で学んでよかったと思ってもらえるよう一人一人の子どもを大事にした教育を進めてまいりたい。今後とも温かいご支援ご協力をお願い申し上げる。

市長　　事務局から何かあるか。

教育総務課　　今年度の総合教育会議は、2回開催することを予定している。次回は12月頃を予定している。

市長　　今回は多くの貴重なご意見やご提言をいただいた。これらを今後の取組にどのように生かしていくかが重要であり、第2回の会議が予定されていることを大変ありがたく感じている。
すぐに対応できない課題もあると思うが、来年度に向けた改善の方向性や取組状況について報告いただくことを期待したい。
以上をもって会議を閉会する。